



Bazin, Leiris,
La course de taureaux

スクリーン上では、闘牛士は、
毎日午後がくるたびに死ぬのである。

—— アンドレ・バザン

表象文化論学会第13回研究発表集会 関連イベント

バザン レリス 闘牛

映画『闘牛』の上映とワークショップ

映画『闘牛』(原題:La course de taureaux, 1951年)について:
映画『闘牛』は、伝説的な映画プロデューサーであり大の闘牛ファンでもあるピエール・ブロンベルジェの監督作品である。
闘牛についての著作も多いミシェル・レリスが、ナレーション原稿を執筆しているという点でも重要な作品である。
映画批評家のアンドレ・バザンも、この作品をめぐって、「すべての午後の死」という美しい論考を残した。

2018.11.11 [SUN] 開場 9:30

入場無料

※申込不要

場所: 山形大学 人文社会科学部棟1号館3階301教室

10:00 ———— 上映前挨拶/大久保

10:05~11:20 — 映画『闘牛』上映 (75分)
小休憩 (10分)

11:30~12:00 — 映画解説 (30分)

『映画の生成変化としての闘牛』
——映画『闘牛』をめぐるA.M.P.M.』 谷 昌親

12:00~13:00 — 昼食休憩

13:00~14:00 — ワークショップ発表 (各20分)

『劇場としてのドキュメンタリー』 大久保 清明

『ミシェル・レリスによる闘牛技, 1937-51年』 千葉 文夫

『『存在論的猥褻さ』をめぐる』
——アンドレ・バザンにおける死の表象』 角井 誠

14:00~14:30 — ディスカッション&質疑応答/谷(司会)、千葉、角井、大久保

お問い合わせ アンドレ・バザン研究会 ✉ cahiersandrebazin@gmail.com

科学研究費学術研究助成基金助成金・基盤研究 (B) 「アンドレ・バザンの映画批評の総合的再検討」(研究代表者: 大久保清明、課題番号: 17H02299)
共催: 表象文化論学会、山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所